

1、むだな時間をつくらない

ア、体育指導上のルールをじゅうぶん指導し守らせる。

イ、移動や用具の準備の際、むだな時間がないようにする。

ウ、児童の話し合いをうまくさせる。

エ、本時の学習内容にはずれた児童の行動に注意する。

オ、教師の説明や示範は簡単に要領よくする。

2 児童意欲を高めていく。

ア、児童に本時のねらい、内容、方法などをよく理解させる。

イ、指導中時々評価したり、賞讃や激励を与える。

3 漸進的に運動を高めていく。

ア、教材研究をして、段階指導のポイントをよく押えておく。

イ、準備運動及び整理運動は、その目的が達せられるようにする。

ウ、漸進的に運動を高める過程において、既習教材または短時間に運動量を与えられるものを適宜とり入れて行うようにする。

4 個人の体力を考慮していく。

ア、健康及び安全管理にじゅうぶん注意する。

イ、身体異常の児童の取り扱いをよく注意して無理のないようにする。

ウ、運動技能と体力とは同一でないことに留意する。

5 施設用具を整備し、活用するための工夫、創作をする。

これらを学年、教材、季節等に応じて適宜とりあげて実践してみました。

ポイントをふまえた実践の記録例

1月中旬から2月上旬にかけて指導のポイント

をふまえた指導案をたてて、全校で指導しましたが、そのポイントについてのみ記録をとりました。紙数もありませんのでその中の1、2の事例を掲げます。

事例1 1年 (教諭)

1年生の場合、適当な運動量は、体育以前の問題であると思うので、生活全般の規正を次のように考えて行なっている。

○ 耳できいたことを、すぐ行動に移すことができるようにする。

○ 日常の遊びの静的なものより、より動的なものにかえる。(特に女子)

○ 精神面での幼稚さ、弱さを生活全般でなおしていく。

体育の指導の面で(第3学期配当教材群)

① かけ足旗などで走るめじるしを示したり、走る距離をはっきりしておいて、児童が自分の力を判定しながら走らせたり、成績を発表させたり、体力の限界をしらずに無自覚に走りすぎないように注意する。

② 長なわとびよくとべない者がいて、なわにかかり、運動量がおちるので、とべる者のグループととべない者のグループをつくって、後者はなるべく小人数にした。

③ 片足ずもうかちぬき戦より、何回勝ったという勝負の方がいい。
・体力の同じ者と組合せたり相手を数多くとりかえてやらせる。

・児童にどうしたら勝てるかを考えさせてやらせたり、その結果を発表させる。

④ おしくらまんじゅう 形、人数、方法などいろいろ変えて指導する。

⑤ 対列ボールけりゲームを多くする。

・ボールから目をはなさないようにさせる。

・ボールをのがした回数、自分がけたボールで得点した回数、ゲーム中にけた回数な

どを発表させるようにすると児童の意欲が高まっていく。

事例2 5年 (F教諭)

① 寒さを防ぐことをねらって

準備運動に随時ランニングをはさみ暖をとった。ジョッキングを適宜行なうと楽しみながら行えるようである。寒さを防ぐということは常に全児童が動いているという状態におく必要がある。そのために用具の整備や指導計画が問題になる。簡易サッカーの時、ボールが2人に1個あったのでよかった。

② 集合解散を早くさせむだな時間を作らないことをねらって。

教師の示範や説明の時の集合は徹底させ易いが、その後児童の学習に移る時、児童同志むだな話し合いが行われてしまう。それをなくすために練習計画をたてる指導の時、時間をかけて練習法やメンバーの組み方などを指導した。

③ 学習内容を事前に知らせるようにつとめ意欲を高めることをねらって
サッカーのようにルールの名称や他の名称や他の名称が新しく多くでてくる教材は、プリントや本の切りぬきなど集めて配布した。その結果リーダーを中心に作戦やポジションを決めようとする態度ができた。
ゲームの組合せも事前に知らせたら意欲的に練習するようになってきた。

④ つとめてほめるようにした
教室にかえってからいつもほめてやるようにしたら、次の学習時に積極性が出て、始まる前からボールなどをけっていた。

⑤ 女子の体力を考えて男子との組み合わせを考えた
男女混合のチームなので女子はボールの勢いをおそれるようだった。そこでポジションを組む時女子同志にするようにした。男子はよ

く理解し、女子もよく動くようになった。

(この学級の簡易サッカーは発表会当日素晴らしい技能をもっていると浅川正一先生からおほめの講評を頂戴した)

指導後の反省のポイントをあげて

体育指導後の児童の反応をたしかめ、その結果などから適切な運動量をみちびき出して指導の継続実践し、より充実させ適切にしたいという念願から、次の観点について反省をすることにした。

1 疲労 つかれたと思う児童の人数

A—多い B—半数ぐらい C—少数

2 満足感 満足したと思う児童の人数

A—多い B—半数ぐらい C—少数

3 学習内容 学習内容にそって児童に運動量を与えたか。

A—充分に与えた B—普通 C—不足

4 次時の学習 悪い影響があった

A—認められない B—多少はあった C—認められない

5 顔色や皮膚 血行がよくなったと思われる児童の人数

A—おおぜい B—半数ぐらい C—少数

6 呼吸や発汗 呼吸があらいう児童や、汗をかいた児童

A—おおぜい B—半数ぐらい C—少数

7 水の摂取 水をのむ児童の人数

A—おおぜい B—半数ぐらい C—少数

調査は各教師が、それぞれ、1時間の授業を全体的な立場で見て、また前時の体育指導との比較などから調べて、次に記載してある「適当な運動量をねらっての学習指導略案と実践記録一覧表」の観点別チェック式反省をし、また項目や方法での問題点、さらに児童個々の特別な反応状態やその原因なども調べ、一覧表のその他の欄に記入することにした。

実践してみると、各観点について疑問もあるし